インマヌエル預言

イザヤ書 7:1-17

賈　晶淳

マタイによる福音書 1 章 18 節以下にイエス・キリストの誕生の預言が記されています。中でも 23 節のインマヌエル預言は私たちに馴染んでいる言葉です。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

この聖句の前半部は本日の本文であるイザヤ書 7 章 14 節の後半部と全く一緒で、待降節と聖誕節に最も知られている言葉の一つです。ただ、マタイの預言にはイエスの名が「インマヌエル」と呼ばれると記されています。ここでイザヤの預言との関連について考える前に関連するイエスの名について簡略に紹介しようと思います。先ず、イエスの呼称であるキリストについてはご存じの方が多いと思いますが、他に幾つかある呼称のなかで最も大事な意味を持っていますので短く説明します。「救い主」を意味する「キリスト」はヘブライ語の「メシア」のギリシア語訳です。そして、メシアは「油注がれた者」という意味を持ち、選ばれ、権威と責任を与えられ、相応しい任務に就かせるため頭に油を注がれる人のことです。古代イスラエルにおける王や祭司、そして預言者もそのような存在として認められていました。

イエスという名(マタイ 1:21)にも意味があります。この名は当時多くの人につけられた名前だったようです。親たちの多くが生まれる自分の子供に期待をもって名をつけるのは時を超えて変わらないことと思います。そして時代ごとに好まれる名があるのも同じでしょう。イエスの代わりに釈放されたバラバ・イエス(マタイ 27:16 他)がいます。少し違う形ですがヨシュア記のヨシュア、宗教改革を行なったヨシヤ王も同じ名前です。これらの名前の基本となるヨシュアは、元はホシェアであったのをモーセがヨシュアとしたのです(民 13:16)。ヨシュアの名前を復元しますと、ヨホシェア、或いは「イェホシェア」という名前ですが、ここで「ヨ」、或いは「イェ」は神の名のヤハウェを意味し、ホシェアは預言者ホセアの名と同じで意味は「救い」です。合わせますとヨシュアという名は「神は救い」という意味であることが分かります。ということからヨシュア、ヨシヤ、イエスは少し発音の違いはありますが時代を超えて人々に好かれた名前であることがよく分かります。

今日のテーマである「インマヌエル」の意味はイザヤ書 8 章 10 節とマタイ 1 章 23 節に記されているように「神は我々と共におられる」です。聖書でこの名が登場するのは本日のテキスト 14 節が最初で、この預言の段落である 9 章 6 節までの間で、8 章 8 節と 10 節の 2 回と、マタイと合わせ 4 回のみです。このインマヌエルという言葉がキリスト教を超え多くの人々に認識されているのは、イエスの名であることにも起因しますが、同時に誤解からでもあるようです。つまりその意味において「我々」のところを「我」として認識することが多いためではないかと思います。注意したいのはあくまでこの名の意味は我々という複数の信仰告白にあるということです。即ち、共同体意識が前提とされていることです。勿論個の救いを否定するのではありません。ただ、生まれる子にこの名をつけることの意味は、現在における共同体の危機をのり越えたい期待感からだと思いますので、共同体意識の方がより大事ではないかと思います。

それではこのインマヌエル預言が登場する背景に何があったのかを本文を通してご一緒に考えてみたいと思います。この預言はイザヤを通しての神の計画と同時に、当時の王権批判であるということで

す。これらのことは前 8 世紀と 7 世紀における裁きの預言者の特徴でもあります。この預言の段落で対象となる王は 7 章 1 節に出ているユダ王国の王アハズという人物です。そして、その時代の背景にはアッシリアの勢力拡大による脅威がありました。紀元前 730 年前後に当たります。その脅威に対抗する形で北イスラエル王国とアラムが同盟関係に入り、その誘いを断ったユダ王国を攻めるも失敗します(列王記下 16 章)。しかし、アハズ王は神にも頼らない存在だったので、当時の預言者であったイザヤはこのアハズ王を批判し、彼に神の計画を告げているのがこの預言の内容です。即ち、神はアハズ王の治世を終わりにし、新しい指導者を与えるという意味です。そして、アハズ王の後継者として紀元前 715 年に油注がれる王は息子のヒゼキヤです。ヒゼキヤ王は神に従って善政を行ない、アッシリアによるイスラエル王国の滅び(前 721 年)の時にユダとエルサレムを守ります。このイザヤの預言の中で生まれる子が、新しい王となるヒゼキヤです。そのため当時のユダの人々はヒゼキヤ王に大いなるメシア的期待をかけていたことでしょう。

そして、この線上で関連して考えたい人物がいます。預言者エレミヤと上記しましたユダのヨシヤ王です。イザヤとヒゼキヤから約 100 年後の時代になります。エレミヤはイザヤと共に大預言者の一人です。そしてヨシヤ王はヒゼキヤ王と肩を並べるユダ王国の重要な人物です。人々はこの二人に大いなる期待感を持ち、二人の王はダビデ王以来最もダビデ王に近い統治を行った人物として認められました。そしてもう一つ、イザヤ・ヒゼキヤの時代的背景と似ているのはエレミヤ・ヨシヤ時代も新バビロニアの勢力拡大の脅威にあっていたことです。勿論、ヨシヤ王もヒゼキヤ王のように新バビロニアの脅威をのり越えます。

こういうことから私見ではありますが、ヨシヤ時代におけるインマヌエル預言はありませんでしたが、あったとしても不思議ではないということです。また続く古代イスラエルの歴史は、バビロニア捕囚期を経て、ペルシア、マケドニア、ローマという巨大な帝国の侵略と支配を繰り返し受けることとなり、常に存亡の危機に直面していて、当然人々は支配者が変わる度にメシアを、救い主を待望していたと思うのは間違いではないでしょう。イエスが生まれる当時の状況も同じだったと思います。人々は数々の混乱の中で個人だけでなく、共同体として救われたい、そのためにダビデ王のような偉大なる存在が再び現れることを切に望んでいたと思います。

最後に、イザヤの預言で「インマヌエル」の名がつけられる人物にはどのような働きが期待されていたのかについてです。イザヤ書 9 章 5 節と六節です。

ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱えられる。ダビデの王座とその王国に権威は増し、平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって、今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。

このインマヌエル預言には、神を拒否し、権威を失い、世界に分裂をもたらせる人物の代わりに、神が世界に直接関与し、新しい人物を立て、神の権威を与え、その上神も熱意をもってその計画に参加し、平和と正義と恵の業によって神の国を実現させるということです。そして、危機の時代に人々はいつもこの預言を思い出したと思います。今、私たちもこの預言が、今に相応しい形で実現されることを共に祈りたいと思います。(2022 年 12 月 11 日証詞より)